



「函館港クルーズターミナル整備事業」が全建賞を受賞

～港湾整備で全国初となる取り組みが評価されました～

「函館港クルーズターミナル整備事業」が建設技術の発展に貢献したことが認められ、令和4年度全建賞を受賞しました。

令和5年6月28日に東京で表彰式が行われましたので、お知らせいたします。

函館港は、道内1位のクルーズ船寄港地になるなど急増する需要に対応するため観光地に隣接した若松地区において「函館港クルーズターミナル整備事業」を実施しました。

事業にあたっては、生産性向上及び安全に配慮をした技術的対応を評価していただきました。

【参考】○全建賞とは

「一般社団法人 全日本建設技術協会」が行う表彰で、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたもので、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々国民ニーズに沿った幾多の取り組みに授与される賞です。詳しくは、一般社団法人 全日本建設技術協会のホームページをご覧ください。

<https://www.zenken.com/hypusyoku/hyousyoku.html>

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 函館開発建設部

築港課 課長

工藤 博文（電話 0138-42-7635 内線 361）

函館港湾事務所 第1工務課長 青井 晃樹（電話 0138-41-4156 内線 31）

函館開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/>

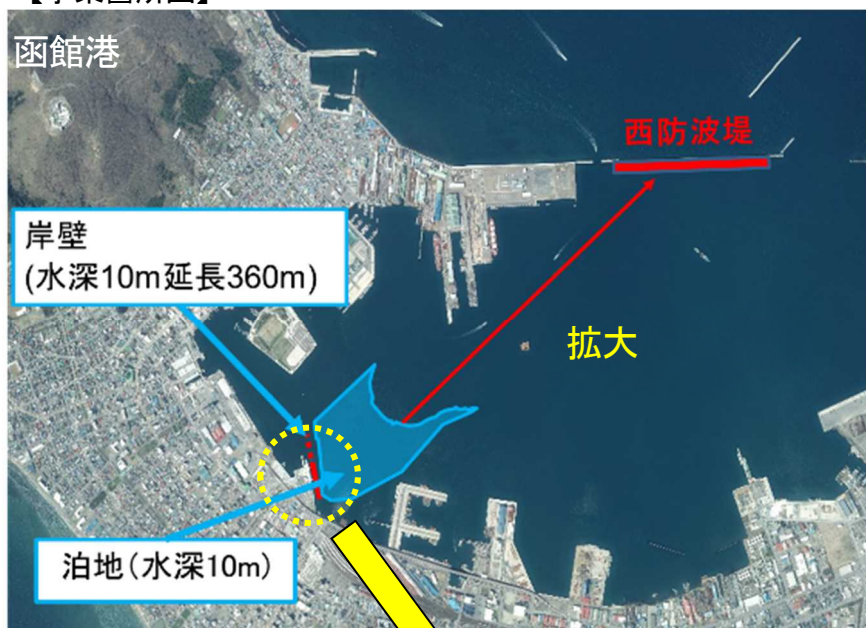


函館港クルーズターミナル整備事業における評価

【評価された点】

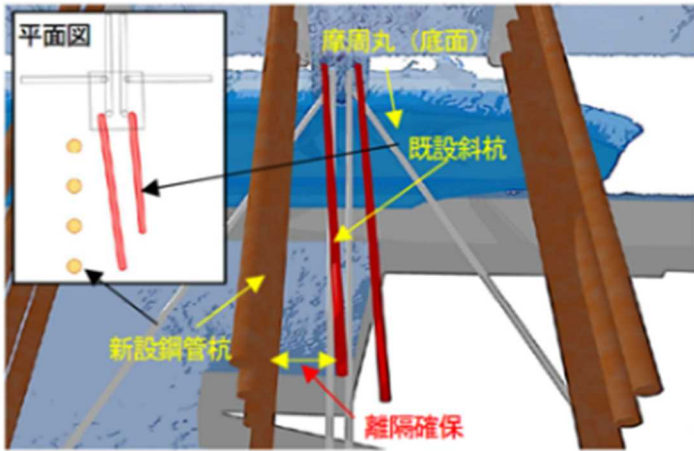
- ① 岸壁整備の手戻り防止
 - ・・・港湾整備では全国初となるBIM/CIMを活用し、設計から施工までを一体検討することで施工段階での手戻りを防止しました。
- ② 設計および構造の工夫
 - ・・・施工箇所の地盤状況に則し、L型平面形状の棧橋構造とし、荷重を分担させるとともに、地震時の複雑な挙動が懸念されたため、3次元フレーム解析を行って支承部の必要可動域を設定し安定性を確保しました。
- ③ 岸壁の早期供用
 - ・・・棧橋構造の受梁部材にプレキャスト工法を採用し、大型起重機船による一括施工とすることで、工期を短縮しました。

【事業箇所図】



函館港クルーズターミナル整備事業における評価

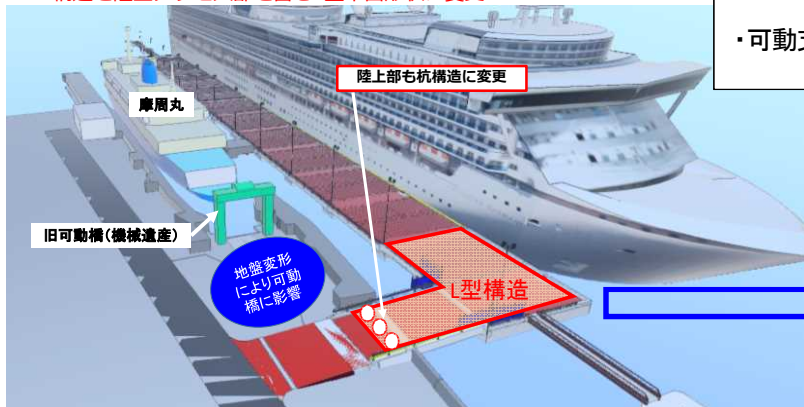
【BIM/CIM モデル化】



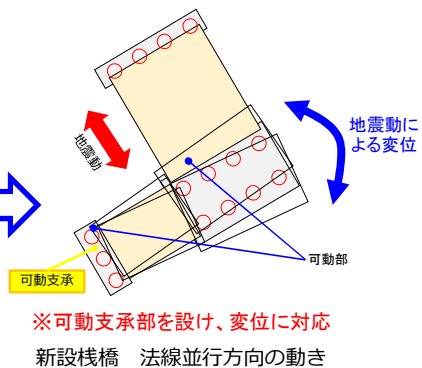
- ・3次元レーザースキャナー測量により高精度でモデル化
- ・地中不可視もモデル化し旧栈橋と新栈橋の杭の干渉を設計段階から回避

【構造の工夫】

○既設岸壁へ荷重をかけない工夫
→構造を陸上アクセス部を含むL型平面形状に変更



- ・地震時に発生する応力を再現可能な3次元フレーム解析により栈橋の挙動を把握
- ・可動支承部を設けることで3次元的な変位に対応



【プレキャスト受梁ブロックの設置状況】

